

## 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

### 報告書資料 一般 - 12

学校名・団体名	千葉大学教育学部附属中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	保護者と共に考え、議論する情報モラル

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

##### 1 活動に至る経緯及び意義

子どもたちのスマートフォンやSNSの急速な普及に伴い、ネットいじめやネット依存をはじめとする、ネット社会の問題が急増しており、教育現場では喫緊の課題となっている。

このような状況のもと、平成31年度より中学校で全面实施となる「特別の教科 道徳」においても、情報モラルの内容を重視して取り上げるよう示された。教科化されたこの道徳では、「考え、議論する道徳」への質的転換が示されている。情報モラルの内容も、ただ注意喚起するよりも、具体的に考え、議論する方が効果的である。情報モラルを学習する教材は様々開発されているが、考え、議論する教材は少ない。そこで、「特別の教科 道徳」の中で、考え、議論する情報モラル教材の開発が求められる。

また、スマートフォンは家庭の判断で持たせ、家庭のルールのもとで利用するものなので、スマートフォンの問題は、学校教育というよりは家庭教育に依存する部分が多い。それにも関わらず、保護者はそれらの問題性を理解せずに子どもに利用させている場合がある。そこで、スマートフォンの利用を通して発生する問題に関して、学校と家庭が連携して取り組んでいけるよう、保護者向けの研修会や保護者会等、保護者が多く集まる場で計画的に啓発していく必要がある。その際、保護者と子どもが考え、議論する内容を取り入れた、保護者向けリーフレットを作成し、配布することが効果的と考える。

##### 2 活動の視点

本活動をしていく上で、以下の3点を中心に取り組んだ。

- ・情報モラルの中でも喫緊の課題として、子ども達を取り巻くスマートフォン及びSNSに関する問題に焦点を当てる。
- ・情報モラル教育としては、「特別の教科 道徳」に焦点をあて、その中で、考え、議論して進めることができる教材として「デジタルペーパー教材」を開発する。  
\*デジタルペーパー教材：プレゼンテーションソフト（PowerPoint）のスライドにあらかじめ用意されたイラストを選択し、吹き出しにセリフを入れ、情報社会の問題を提起するストーリーを作るための教材。（4コマ漫画のイメージ）
- ・子どもと保護者が考え、議論する内容を含めた、情報モラルに関する保護者向けのリーフレットを作成し、全学年の保護者に配布する。また、研修会等を通して、多くの教員や多くの学校に可能な限り配布していく。リーフレットは他校でもカスタマイズして作成できるような形式にし、可能な限りデータファイルも提供していく。

##### 3 活動内容

###### (1) デジタルペーパー教材の作成

一般社団法人日本教育情報化振興会が主催する「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー検討委員会

において、委員会メンバーと共同開発した。完成版は、平成31年4月にリニューアルされる「ネット社会の歩き方」のWebページ (<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>) の中で掲載される予定。共同開発することができたおかげで、閲覧者の多いサイトに掲載されることになり、多くの教員に利用してもらうことが可能となった。また、教材作成するためのイラストも多数用意することができた。当初、この教材は「特別の教科 道徳」での活用を想定していたが、完成版では、「特別の教科 道徳」に限らず、情報モラルを扱う様々な場面で活用できるようになっている。

このデジタルペーパーサート教材は、ネット社会の様々な問題を、簡単な紙芝居のようなストーリーを通して考えさせるものである。教員側が情報モラルに関して考えさせるための教材を作成し、活用することもできるが、本来の目的は学習者である生徒が個々あるいはグループになり、ネット社会の問題を考えさせるストーリーを制作するものである。この活動を通して、生徒達はネット社会の問題に関してより主体的に考えることができるのではないかと考える。

#### (2) デジタルペーパーサート教材を使った授業実践

デジタルペーパーサートの教材化に向け、試験的に中学1年生の道徳授業において、学級担任に実践してもらった。授業の前半は教員が作成したストーリーをスクリーンに提示し、情報発信における行き違いに関する内容を考えさせていた。まず、この利用の仕方は多くの教員が活用できるものと確認できた。授業の後半では、グループになり、身近に起こっている、または起こりうるネット社会の問題を考えさせ、ストーリーを作成させた。本来であれば、この教材は生徒がタブレット等の情報機器を使いながら個々あるいはグループで取り組んでいくものであるが、教材をタブレットにインストールして活用する段階になかったため、授業ではあらかじめ印刷したイラストをグループごとに配付し、そのイラストを必要に応じて切り取り、所定の台紙に貼り合わせてストーリーを作成していく方法をとった。タブレット等の情報機器がそろっていない場合でも、アナログ的に話し合っただけでも進めることも可能な教材であることも確認できた。授業は時間が足りずに、グループごとの作成は完成に至らなかったが、後半の活動では考え、議論しながら取り組んでいる姿勢が多く見られ、情報モラルの内容を主体的に取り組ませる方法としては効果的であるといえる。

#### (3) 保護者向けリーフレットの作成

「問題は身近で起こっている！スマートフォンとSNSの落とし穴」というタイトルの、保護者向けリーフレットを作成した。リーフレットは、「データからみるネット社会の現状」「子ども達を取り巻くネット社会の諸問題」「スマートフォンに関する子ども達の実態と課題」「スマートフォンと SNS の落とし穴」「ネット社会の諸問題の対策」「家庭での対策」「お勧めサイト」の7項目8頁で構成した。文字数を少なくし、データを示しながら、大切なポイントをわかりやすく示すようにした。その中で、「スマートフォンに関する問題は基本的に家庭で対応するものである」とのメッセージを意識的に組み込んだ。

また、「家庭での対策」で紹介したポイントの中で、子どもと保護者が考え、議論する場としては、「家庭でのルール作り」と「家庭でのコミュニケーション」があげられる。「家庭でのルール作り」では「親子で一緒に考えて決める」「ルールは紙などに記録しておく」など、ルールを決めるときのポイントを示した。このルール作りは持たせ始めるときが最も重要であるが、既に所有している生徒もいるため、そのような家庭にはこのリーフレットを機会に見直しをするよう促した。「家庭でのコミュニケーション」では、「ネット上に悪口を書かれたとき」「ネット上で知り合った人に誘われたとき」「パスワードを知られて被害にあってしまったとき」等、具体的な事例を示し、被害にあったときどの様に対応するか、親子で話し合う場を設けるようにした。

#### (4) 保護者向けリーフレットの活用

完成したリーフレットは、学年保護者会において配布し、スマートフォン及びSNSの問題性について啓発した。リーフレットを配布することにより、保護者会に出席できなかった保護者に対しても、問題性を伝えることができた。今後は、新入生保護者会や地域の職員研修会等で配布していく予定である。また、要望のある学校や自治体にはデータファイルを提供したりして、啓発に努めていきたい。

### 4 活動の成果と課題

本活動の成果として、以下の点があげられる。

- ・情報モラルに関して考え、議論する教材として、デジタルペーパーサートを作成することができた。
- ・デジタルペーパーサート教材は、考え、議論する情報モラル教材として有効であることが確認できた。
- ・スマートフォン及びSNSの問題を取り上げた保護者向けリーフレットを作成することができた。
- ・リーフレットの中に、親子で考え、議論する内容を盛り込むことができた。

また、課題としては、以下の点があげられる。

- ・保護者と共に教員がネット社会の問題に関して考え、議論する場を設けることができなかった。次年度は、このリーフレットをもとに保護者と教員が共に考え、議論する場を設定し取り組んでいきたい。